



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

下高瀬の商店街
昭和35年頃・三野町

三野庁舎西側の交差点付近から、県道大見・吉津・仁尾線を西側に向かって撮影している。写真右側にはタンス店や酒屋、左側は食堂。右手前には1930~50年代に隆盛を極めたオート三輪が見える。

「思い出の1ページ」

商店街で糺や味噌の製造・販売店を営んでいる丸岡聰さん(90)が、当時の思い出を語ってくれました。

「当時、この通りは、お菓子屋から飲食店、履き物屋など販売する店がたくさん軒を連ねとったなあ。履き物屋なんかは販売所の裏に大きな工場を構えるところもあったで。バスが通り、人通りも多くて、とてもにぎやかでな。日常必要なものはよそへ行かんでも、この通りで全部買えよったもんね。

ほかにも、芝居小屋があつて、映画も上映しよったから、多くの人が夜に集まよったわ。200人くらいが入れる2階建ての建物は、いつもいっぱいよったなあ。娯楽があまりない時代よったから、みんな駆けつけよったんやろな。観るときは、ゴザの上に座よつたから、足が痛くなるんよ。だから座布団の有料貸し出しなんかもしよったわ。今の映画館からすると想像できんやろな。

毎年本門寺周辺で開催される大坊市の時には、本門寺からうちの家辺りまで500mくらい屋台が出て、すごく活気があ

ったな。仁尾から峠を越えて市に来る人や、伊予三島の方から屋台を出しに来る人もおつたくらいでな。陶器や衣類、農機具なんかも売られよつて、一年分の生活用品を買いに市に集まよつたもんね。本門寺から帰よつてくるのに、1時間近くかかるんやから、すごい人出よつたで」

編集 後記



近年、市内の若者が自分のオリジナルナリティを生かし、職業以外で何かを始めているというところをよく聞くようになってきた。今回はその一部の人しか取り上げられませんでした。取材をするにつれ見えてきたキーワードは「つながる後押しをする」ということでした。自分がほんの少し勇気を出し、参加することで、誰かにつながる後押しをしたらいいな、また後押しをする側になることができたい。しっかりと考えたうえで、一歩ずつ歩む若者の前向きな考えに私も一歩背中を押してもらったような気がしました。